

平成 19 年 3 月期の連結子会社の経営成績及び 平成 20 年 3 月期の業績予想とグループ経営方針



平成 19 年 5 月 10 日

上場会社名 スカパーJSAT 株式会社 上場取引所 東証 1 部
 コード番号 9412 URL www.skyperfectjsat.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 仁藤 雅夫
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 平林 良司 TEL (03)5219-7800

1. 平成 19 年 3 月期の連結子会社の経営成績

平成 19 年 4 月 2 日の共同株式移転による持株会社設立により、当社の 100%子会社となりました株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズ（以下「スカイパーフェク TV」）およびジェイサット株式会社（以下「JSAT」）の平成 19 年 3 月期の経営成績につきましては、次のとおりです。

(1) スカイパーフェク TV

スカイパーフェク TV グループの当連結会計年度の営業収益は、顧客管理業務およびデジタル衛星放送普及促進業務においては加入者の増加、その他プラットフォーム関連業務においては業容拡大等により 85,422 百万円（前連結会計年度比 3.7%増）となりました。

営業利益は、加入者獲得費用減少等により営業費用が 82,996 百万円（前連結会計年度 0.5%増）に留まったため 2,425 百万円となりました。また、経常利益は 2,761 百万円（前連結会計年度比 2484.4%増）となりました。当期純損益は、投資有価証券の市場価格下落に伴う投資有価証券評価損および平成 19 年 9 月に予定している本社移転の際に見込まれる移転費用引当金等を特別損失に計上したこと等により、1,311 百万円の損失となりました。

詳細につきましては、同日付の株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズの平成 19 年 3 月期の決算短信をご参照下さい。

(2) JSAT

JSAT グループの当連結会計年度の営業収益は、北米・ハワイをカバーする通信衛星 Horizons-1 のサービス拡大による米国子会社 JSAT International Inc. の収益増加、S バンドを利用した移動体向けサービス開始の一方で、一部大口顧客の契約満了および継続利用の減少に加え、その他一部顧客の利用縮小・解約が発生したため、38,770 百万円（前連結会計年度比 11.8%減）となりました。

営業利益は、減価償却費が前連結会計年度に比べて大幅に減少したこと並びに平成 18 年 3 月期に譲渡した連結子会社に関する営業原価及び販管費が減少したことにより、10,599 百万円（前連結会計年度比 302.0%増）となりました。また、経常利益は 10,607 百万円（前連結会計年度比 359.4%増）となりました。当期純利益は、平成 19 年 9 月に予定している本社移転の際に見込まれる移転費用引当金を特別損失に計上したこと等により、6,260 百万円となりました。

詳細につきましては、同日付のジェイサット株式会社の平成 19 年 3 月期の決算短信をご参照下さい。

2. 利益配分に関する基本方針及び平成 19 年 3 月期、平成 20 年 3 月期の配当

当社グループは、株主に対する長期的かつ総合的な利益の拡大を重要な経営目標と位置付けており、安定的な経営基盤の確立に努め、健全な財務体質の維持及び積極的な事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案し、長期的安定的な配当を継続することを基本方針としております。また、当社の定款においては、会社法第 459 条第 1 項に基づき「剰余金の配当等を取締役会の決議によって定める」ことを定めております。

また、平成 19 年 3 月期につきましては、平成 19 年 3 月 31 日最終の株主名簿に記載または記録されている株主に対して、スカイパーフェク TV は 1 株当たり 750 円、JSAT は 1 株当たり 3,000 円の期末配当を予定しております。平成 20 年 3 月期につきましては、当社におきまして 1 株当たり 1,000 円の期末配当を予定しております。

3. 平成 20 年 3 月期の当社の業績予想（連結・個別）

(1) 連結業績予想（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日） (百万円未満切捨て)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	60,000	2,000	2,000	1,500
通期	125,000	5,500	5,000	5,000

平成 19 年 3 月 2 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期の業績予想に変更はありません。

(2) 個別業績予想 (平成 19 年 4 月 2 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(百万円未満切捨て)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	900	△50	△100	△100
通 期	5,500	3,900	3,800	3,800

平成 19 年 4 月 2 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期の業績予想に変更はありません。

(3) 配当予想

	1 株当りの配当金
	円
中間期	0
期 末	1,000
合 計	1,000

平成 19 年 3 月 2 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期の配当予想に変更はありません。

*本資料に記載されている将来の業績に関する計画、見直しなどは、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。また、連結納税を採用した前提での税金計算及び税効果についても業績予測の中では考慮していません。

4. 経営方針

(1) 経営の基本方針

当社は、平成 19 年 4 月 2 日、スカパー！TV と JSAT が経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。衛星という社会性の高いインフラストラクチャーを保有し、かつ、有料多チャンネル放送のプラットフォーム事業者でもある当社グループは、日本における有料多チャンネル放送の更なる市場拡大および国内外の衛星通信・衛星放送インフラストラクチャーの更なる発展を図るとともに、通信・放送の融合を見据えた総合的な事業の拡大と経営の効率化を通じて企業価値を最大限に高めることを目指してまいります。

また、当社グループの経営理念として、①日本の有料多チャンネル放送のリーディングカンパニーとして、市場の拡大を牽引し、多チャンネル放送を通じて利用者の豊かな生活に寄与する、②すべての人に多様な映像コンテンツを楽しんでいただくことを目指し、パイオニア精神をもって新たな技術を取り入れ、利用しやすい環境と充実した放送・通信サービスを提供することを掲げております。

(2) 中長期的な経営戦略

当社グループの中核の事業子会社であるスカパー！TV と JSAT は、過去 10 年にわたり、通信衛星を利用した DTH (直接受信) を介し、日本における有料多チャンネル放送業界を担う両輪として、市場の拡大に努め、これまで 423 万件 (総登録数) を超える加入件数を獲得してまいりました。現在、放送・通信業界においては、全国放送を開始した地上デジタル放送や平成 23 年に迫った地上アナログ放送の停波、光ファイバの普及拡大に加えて、次世代通信網である NGN (Next Generation Network) インフラや無線 LAN などによるモバイル環境のブロードバンド化、更にはネットにおける映像コンテンツ流通の拡大やトリプルプレイ・クワトロプレイ・FMC (Fixed Mobile Convergence) を中心とした通信・放送の大きな事業グループ化の進展など、両社を取り巻くメディア環境はめまぐるしく変化しております。

このようなメディア間の競争激化の中、当社グループは有料多チャンネル放送市場の拡大やメディア横断的な水平展開の強化を図ってまいります。

なお、当社グループの経営戦略を実現していくにあたり、以下の施策で事業を推進してまいります。

①スカパー！

スカパー！(124/128 サービス)については、平成 20 年夏をめどにペイ・パー・ビュー (PPV) やプレミアムチャンネルを中心に、先ず 10 チャンネル程度のハイビジョン (HD) 多チャンネル放送を開始し、平成 21 年秋をめどに 30 チャンネル程度に拡充するとともに、HD パックも発売する予定です。また、次世代映像符号化方式「H. 264」に対応し、ホームネットワークにも対応した地上デジタル放送チューナー内蔵の高性能受信機を導入するなど、付加価値のサービスも計画しております。

②e 2 by スカパー！

110 度 CS デジタル放送 e 2 by スカパー！については、現在 2 チャンネル体制の HD 放送を平成 19 年度中に 5 チャンネル程度、更に平成 21 年度までに 10 チャンネル程度まで拡充する予定です。

③スカパー！光

有線系サービスの主力である「スカパー！光」については、戸建展開の本格化に伴い、現在の RF (Radio Frequency) 方式による多チャンネル放送サービスに加えて、平成 19 年度中に IP 利用のコンテンツ配信サービスとの連携を進めてまいります。また、平成 20 年度中にもスカパー！で開始さ

れる HD チャンネルもサービスに組み込み、地上デジタル放送や BS デジタル放送と合わせて、最強の放送ラインアップを提供してまいります。

④ IP、モバイル等のサービス

IP 放送については、平成 19 年度に参入し、コンテンツアグリゲーションや顧客管理を行ってまいります。B フレッツ上の統合的な放送体制や次世代ネットワーク NGN への対応を関係各方面と協力して進め、スカパー！光も含めて全国をカバーする光ファイバによるコンテンツ配信体制を構築する計画です。また、パーソナルユーザーの開拓に向けて、無線 LAN 等を利用して小型モニター（個室テレビ、モバイル端末、PC、ゲーム機器、PDA、カーナビゲーションなど）に対して多チャンネルコンテンツを配信する Light なスカパー！サービスの開発を行ってまいります。また、モバイルマルチメディア放送事業の可能性やセグメント化された多彩なコンテンツ開発と流通を IP で実現し、グリッドコンピューティングを活用した個人レベルの放送や通信サービスについても検討してまいります。

⑤ 通信衛星事業

通信事業では、衛星インフラの効率的な調達と安定的な運用を進め、また協業によりサービスの 카테고리やエリアの拡大を図ってまいります。放送、公共、グローバル、移動体・モバイルユビキタスという 4 本柱の追求による積極的な新規案件の開拓、衛星の優位性を活かした収益基盤の強化、衛星周辺での M&A を含めた新規事業の開拓を推進してまいります。インフラ事業者としての衛星通信ネットワークの安定供給の使命と安定的な利益およびキャッシュ・フローの創出を両立させてまいります。